

# 医道の日本

The Japanese Journal of  
Acupuncture &  
Manual Therapies

3 MARCH  
2020  
Vol.79 No.3

東洋医学・鍼灸マッサージの専門誌

第79巻 第3号(通巻918号) 2020年3月1日発行(毎月1回1日発行)  
1946年8月19日第三種郵便物認可 ISSN 0287-6760

## 災害に備える

### 卷頭企画

#### 【インタビュー】

専門家に聞いた

#### 今から始める災害への備え

/株式会社ニチボウ

#### 【レポート】

DSAM委員による

#### 鍼灸マッサージ師の災害支援活動報告

/堀口正剛、仲嶋隆史、古田高征、国安俊成

#### 【コラム】

#### 拝見! 治療院ができる防災の工夫

/小峰拓也(小峰医心堂 ゆりのき鍼灸整骨院)

### 特集

アレルギー性  
鼻炎への  
鍼灸治療

# 好酸球性副鼻腔炎に対する中国針と漢方薬併用治療が有効であった一症例



なが もり か や こ さい まい  
**長森夏弥子（崔邁）** 長津田まい鍼灸院院長

1957年、中国四川省生まれ。1981年、中国河北医科大学邯郸分校中医專攻卒業。1989年、河北中医院（大学）卒業。河北省邯郸市中医院内科・鍼灸科に10年間勤務。河北省邯郸市針灸学会理事。1991年、来日。1996年、女子栄養大学大学院卒業。2010年、横浜医療専門学校卒業。2015年、神奈川県横浜市緑区長津田に「長津田まい鍼灸院」を開業。2016年、登録販売者資格取得。

## I. 目的

好酸球性副鼻腔炎は、鼻茸や鼻汁に好酸球が多く存在する原因不明の難治性副鼻腔炎の1つである。この病気は高度の鼻閉と嗅上皮の障害を起こし、進行すると最終的には嗅覚が消失し、さらに味覚障害などの疾病を起こしてしまう。治療の面では西洋医学の手術や経口ステロイドの内服で鼻閉は一時的に改善するが、すぐに再発し、生涯これを繰り返して患者に不利益をもたらす<sup>1)</sup>。

本症例ではこの難病指定の疾患に対し、中医学に基づき中国針と漢方薬を併用した治療を行い、その治療効果およびメカニズムについて観察した。

## II. 症例

### 【患者】

男性、26歳。X年7月に受診。

### 【主訴】

2年間嗅覚がなく、味覚の異常が続いている。

### 【現病歴】

X-2年、ストレスがあって高熱が出たあと（当時、病院では風邪と診断）、知らないうちに匂いが分からなくなったり。また、味覚も敏感になり、徐々にすべての食品の味をえぐい、また表現ができない味に感じ、特に甘い物を食べると気持ちが悪くなる。食事の量が減り、体重が5kg落ちた。

X-1年からは耳がかゆく、聴力低下の症状も現れた。鼻水が常に喉の奥から流れ、鼻づまりで常にストレスを強く感じ、また口渴・手のひらに汗をかく。小便是黄色あるいは茶色。大便是5日間に1回で臭い。やる気がなく、疲れていく

るときには視力低下などの症状を伴う。都内の病院を多数受診したが症状の診断がなかなかできず、三重大学医学部附属病院を受診し検査を受け、好酸球性副鼻腔炎だと診断された。医師によると「血液検査の結果で好酸球が正常値よりもかなり多く、鼻茸ができていない段階だ」と言われたとのこと。また、貧血・肺活量低下も指摘された。処方された飲み薬を2種類飲み、血中好酸球が正常値まで下がったが症状の改善がないため、当院を知る患者の母親に紹介され、当院での治療を求めた。

#### 【既往歴】

毎年春にひどい花粉症を発症する。また、子どもの頃から神経が敏感で驚きやすい。X-10年から左半身に汗を多くかく。X-5~6年から、何かをしている間意識が不明という症状が見られた。癲癇や心電図の検査では異常がないといわれたが、その症状がX-3年から2~3カ月の間に1回の頻度で発症し、来院前の日も発作を起こした。

#### 【所見】

将来の不安や治る自信がないのか、顔に表情がない。病状はほとんど親から説明してもらった。舌が淡白、苔が薄白、脈が弦有力。切診で陽白の圧痛は陽性であった。

#### 【診断】

西洋医学：好酸球性副鼻腔炎。

中医学診断：鼻淵、肝胆熱毒上燻、痰湿瘀血阻滯、久病による気血津液不足型。

#### 【治療原則】

清熱解毒、祛湿化痰、活血通絡、開竅通鼻開胃兼補益気血津液。

#### 【治療方法】

①漢方薬：釣藤散+山梔子・玄参・辛夷を煎じ薬として1年間投与。このあと、顆粒剤の釣藤散を錠剤の鼻淵丸、田七人参錠剤と麦芽を毎回3種類、1年間投与した。

②鍼治療：週に2回のペースで行った。手法は平補平瀉で、置鍼時間は毎回45分であった。使用鍼：井穴に0番1寸。曲池・尺澤・血海・足三里・陽陵泉・豊隆に2番2寸。ほかのツボには2番1寸。

なお、当院での治療期間中に医師の判断で投薬治療を中止している。

### III. 経過

#### 1. 初期の1カ月間の経過

##### 〈第1診〉

患者の過敏な体質を考慮し、まずは治療を受けやすいツボを選ぶことにし、上星・迎香・列欠・合谷・血海・陽陵泉・豊隆・三陰交・行間を取った。

##### 〈第2診〉

症状が明らかな変化は見られない。患者は「鼻の奥から鼻水が多い、イライラする」と発言。

所見：舌の色が改善され淡紅潤を呈し、脈が弦。四白の圧痛が陽性であった。

治療：前回の内容に四白・神門・少商・陰陵泉・内庭を加えて清熱解毒、祛痰通絡、通鼻開竅の効果を強くし、かつ副鼻腔炎を起こす前頭洞の局部（陽白）へ、深さは1分の斜刺を行った。

##### 〈第3診〉

前回治療のあと、鼻奥からの鼻水と鼻閉がなくなったが、埃の多い場所に行ったら鼻水が増えた。また、前日から大便が出やすくなった。このとき患者から「子どもの頃から神経が敏感で驚きやすい」「10年前から左半身に汗が多く、左右対称にならない」「5~6年前から何かをしている間、意識が不明という症状が気になる」といった話を聞く。

所見：陽白の圧痛が陰性になった。

特集

治療：養陰平肝熄風の曲池・合谷・陽陵泉・三陰交・太済。同時に祛湿化痰開竅の効果がある列欠・豊隆。また、篩骨洞に近い部位の印堂、通鼻開竅の効果がある上星・迎香・少商と少衝を取り、鍼をした。

#### 〈第4診〉

運動したあと、初めて匂いを1回感じた。食べられる食品が増えた。しかしパンからは酸味を感じ、野菜は食べられなかった。鼻水がない、汗を左右両側で同様にかくようになり、イライラが減った。

治療：前回と同様。

#### 〈第5診〉

大便は2日間で1回。

所見：舌が淡白、苔が薄白。

治療：印堂・肺俞・心俞・膈俞・肝俞・脾俞・腎俞・魄戸・少商と少衝を用いた。

#### 〈第6診、第7診〉

五診目と同じように治療を行った。

#### 〈第8診〉

匂いを感じるようになり、身体が熱いとき体臭が分かるようになった。味覚が少しづつ戻り、ラーメンの本当の味が瞬間に分かり、食べられない野菜を食べても嫌な味がしなかった。治療：印堂・尺沢・列欠・血海・豊隆・陽陵泉・足三里・太衝・中衝に鍼をした。

治療を1カ月受けたあと、嗅覚と味覚は3分の1ほど回復したこと。また神経が敏感で驚きやすい症状がなくなり、意識不明の症状も出ない。出汗も左右に対称になった。

## 2. 2カ月以降の経過

#### 【治療方法】

全身的な体調はよくなないので、嗅覚と味覚を回復する目的で、次に示すようにA群とB群のツボを交替で使用し、鍼治療を行った。

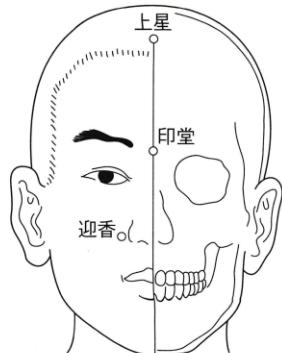


図1 顔面部のツボ

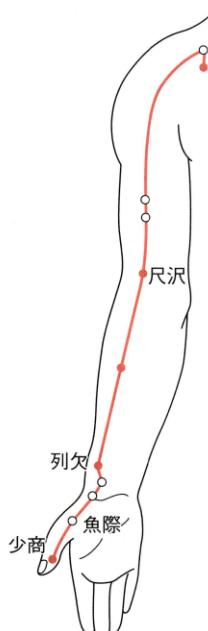


図2 四肢のツボ①

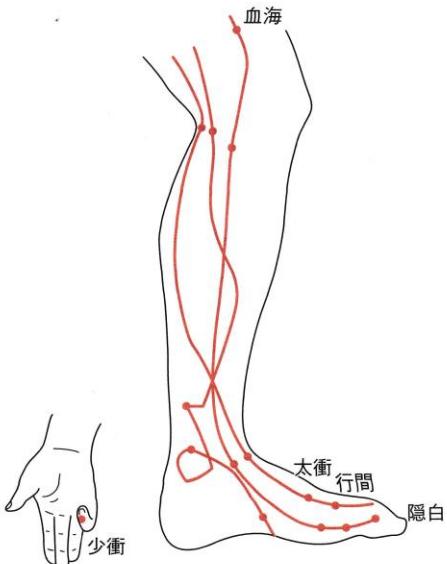


図3 四肢のツボ②

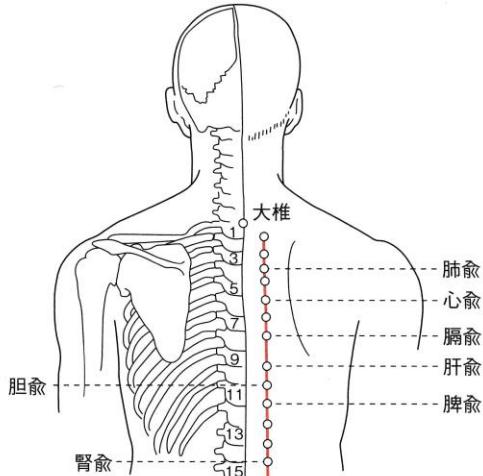


図5 背部のツボ

#### ・A群ツボ

- ①顔面部のツボ：副鼻腔に近い印堂（篩骨洞と嗅神経）・前額（前頭洞）や頬部（上頸洞）の圧痛点。鼻水・鼻閉・くしゃみに、上星・迎香（図1）。
- ②四肢のツボ：清熱解毒の行間・俠溪・魚際・内庭。清肺化痰の尺沢・列欠・豊隆。行氣活血の陽陵泉・血海・太衝。通鼻開竅と開胃をして、嗅覚と味覚の回復を促進する効果がある少商・少衝・隱白・厲兑（図2、図3、図4）。

#### ・B群ツボ

- ①背部のツボ：大椎・肺俞・魄戸・心俞・膈俞・胆俞（肝俞）・脾俞・腎俞（図5）。
- ②通鼻開竅と開胃をして、嗅覚と味覚の回復を促進する効果のある少商・少衝・隱白・厲兑（毎回、少衝・隱白・厲兑のなかから1つを選んだ）。

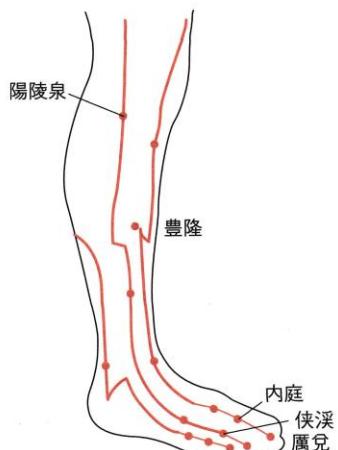


図4 四肢のツボ③

## IV. 結果

### (1) 嗅覚の変化

初めて鍼治療を受けてから2ヵ月後、嗅覚が

半分ほど回復した。治療を続いて4カ月のある日、お風呂に入っていると鼻から茶碗1杯ほどの大量な赤色、茶色、黒色が混じった分泌物と組織が排出され、患者はその生臭い匂いをよく感じたという。おそらく、今まで副鼻腔と鼻のなかにあった異常な組織がはがれて排出されたものと考える。このように鼻から分泌液と組織が排出されることが半年ほど続いた。

初診から6カ月目の時点でも下水・トイレの匂

い（糞・尿）・焦げた匂いは分からず、また洗剤やシャンプーの分類の区別もできなかったが、それ以外の匂いをだんだん濃く感じるようになった。さらに治療を2年半受け続け、徐々に下水・トイレ（糞・尿）と焦げた匂いが分かるようになり、また洗剤とシャンプーの区別もできるようになった（表1）。

## (2) 味覚の変化

初めて鍼治療を受けてから2カ月後、今まで

表1 鍼治療と漢方薬併用治療による好酸球性副鼻腔炎患者の嗅覚と味覚の変化

初診からの治療	嗅覚の変化	味覚の変化
2カ月後	嗅覚が半分ほど回復した。 具体的には、トマトの香りが完全に分り、養豚場の匂いと糞の匂いも分かったが、ガソリン、豚肉、男女の体臭とトランクの匂いを異臭だと感じる。	おいしく感じる食べ物は半分ほど回復した。 食べられるもの：主食のパン・米、麺類や肉・大豆製品・卵の黄身・乳製品。 食べられないもの：野菜・果物（嫌な味ではない）・特に魚・甘いもの。しかしトマトとピーマンの味が分かった。
4カ月後	ある日、お風呂に入っているとき、鼻から茶碗1杯ほどの大量な赤い、茶色・黒い異物が排出され、本人はその生臭い匂いをよく感じた。	普通に食べられるようになり生活支障がほとんどなくなった。家でつくった料理に砂糖を入れても問題なく、コンビニの添加物が入っている甘味がだめ。
半年後	下水・トイレの匂い（糞・尿）・焦げ匂いが分からず、洗剤やシャンプーの分類を区別ができない。それ以外の匂いをだんだん濃く感じる。	野菜をおいしく食べられた。食べられなかったカレーも食べられるようになる。ガムと綿飴の甘味が分かった。
1年後	特に変化なし	食べられるもの：パン・米と肉を噛んで甘味を強く感じ、牛乳をおいしく飲める。肉と野菜を多く取っている。 食べられないもの：海産物・果物と漬物
1年11カ月後	下水の匂いが分かった。肉・魚の焼く匂いがOK。シャンプーの個別の匂いが分かった。	海産物のエビ・白魚と魚でつくったお菓子を食べられた。果物の飲み物を半分飲めた。
2年後	小便の匂いが分かった。食べ物の香りがさらにする。	果物の柑橘類(甘酸っぱい)・梨・レモン・石榴、野菜のきのこを食べられた。 食べられないもの：ケーキなどの甘いもの・青魚。
2年半後	魚・肉・木を焼いた匂いの区別ができる。いろいろなものとの本当の香りが分かった。	食品の本当の味を感じた。魚のウィンナー・煮干しラーメンを食べられた。
3年後	焦げ臭い・トイレ(糞)の匂いが分かった。子どものオムツ交換に役立つとのこと。「嗅覚が普通になり治った」と本人が言った。	甘いものをほとんど食べられた。一部、例えばあんこ洋菓子がまだめだが、健康のために別に食べなくてもよいとも考えられる。やはり生臭い魚類が食べられない。

おいしく感じることができなかった食べ物のうち、半分ほどをおいしく感じられるまで回復した。主食である炭水化物のパン・米、麺類、タンパク質食品の肉、大豆製品、卵の黄身、乳製品を食べることができた。なお、まだ食べられない物としては野菜や果物（嫌な味ではない）などがあり、特に魚と甘い物が食べられなかつた。半年後には野菜もおいしく食べることができ、栄養のバランスが取れ、生活支障がほとんどなくなった。それから治療を2年半続け、果物・白魚と一緒に甘い物を食べられるようになり、本人はとても満足気であった（表1）。

### （3）体質の変化

前述した治療を始めて1カ月後、「神経が敏感で驚きやすい」「発汗は左右で対称にならない」「時々、瞬間に意識が不明になる」といった症状がなくなった。

また、好酸球性副鼻腔炎の治療により、翌年の花粉症の症状が軽いことも見られた。症状のスコアは（つらくて我慢ができないを10とする）目のかゆみが例年10であるのに対し、治療後は3~4、また鼻水が例年10であったのが治療後には5~6、鼻づまりが例年8から治療後には6となった。花粉症の発症期間も短くなった。治療後2年目の春、マスクをしていなくとも花粉症の症状がほとんど出てなかつた。

### （4）三重大学医学部附属病院の検査の結果

#### （情報は本人による提供）

##### ①嗅覚テスト

アリナミンテストで治療前、潜伏期間と持続期間とも「0」で、治療開始から5カ月後には普通になった。ほかのテストでも、スコア（10が満点）が治療前2から5カ月後には8になり、11カ月後では9になった。

##### ②味覚テスト

五味およびそれぞれの濃度の検査を受けた。治療前、ほとんど「0」であったのが、治療開始

から5カ月後には塩味と酸味に対し正常になり、旨味が7~8割回復、甘味と苦みが正常でないと診断。11カ月後にはすべての味が9割以上分かったことを確認した。

##### ③検体検査の結果

治療開始から4カ月後、鼻から流れたものについて病院で検査を受けた。結果は異物組織であった。11カ月後、鼻水の検査の結果は正常となつた。

##### ④血液検査の結果

患者は最初、三重大学医学部附属病院で1年間、新薬の治療を受けて血液検査の項目が基準値まで下がつたが、当院での治療を8カ月間受けてから、白血球分類の各項目の数がさらに次の通り下がつた。好中球数が治療前後それぞれ $2990/\mu\text{L}$ と $2790/\mu\text{L}$ 。リンパ球が治療前後それぞれ $2000/\mu\text{L}$ と $1750/\mu\text{L}$ 。単球が治療前後それぞれ $240/\mu\text{L}$ と $220/\mu\text{L}$ 。好酸球が治療前後それぞれ $400/\mu\text{L}$ と $280/\mu\text{L}$ 。好塩基球は治療前後それぞれ $30/\mu\text{L}$ と $50/\mu\text{L}$ 。

これらの結果から血中好酸球が明らかに下がつたことが確認できた（表2）。

## V. 考察

好酸球性副鼻腔炎は、両側の鼻の中に多発性の鼻茸ができ、手術をしてもすぐに再発する難治性の慢性副鼻腔炎である。この病気は原因不明で、症状として高度の鼻閉と口呼吸、さらに鼻閉と嗅上皮の障害が進行すると嗅覚障害が生じ、最終的には嗅覚は消失する。嗅覚障害のため風味障害を含めた味覚障害も來し、気管支喘息や好酸球性中耳炎を伴うこともある。病理学的に鼻の中に水ぶくれのような袋の鼻茸がいくつもでき、鼻の中を充満していくのが特徴である。この鼻茸を顕微鏡で調べると好酸球という

免疫細胞が多数認められるので、好酸球性副鼻腔炎という名前がついた。血液検査において血液中に好酸球が多数現れる。鼻の中をCTで撮影すると、目と目の間の部位（篩骨洞）に影が認められ、その影は頬の位置にある上顎洞よりも濃く、重症であることが特徴である。また、試験管での研究によって、好酸球性副鼻腔炎の鼻茸では血液を固める作用が亢進しており、血の塊を溶かす作用が減弱していることが分かっている<sup>2)</sup>。

治療については、手術により鼻腔に充満した鼻茸を摘出すると、鼻閉は一時的に改善するが、すぐに再発し、鼻腔を充満していく。今や経口ステロイド以外、有効な治療方法がまた見つかっ

ていない。予後については、経口ステロイドの内服で軽快するが中止すると感染、体調変化などにより増悪し、これを生涯繰り返すことになる。そのため、この病気が国に難病指定とされた<sup>1)</sup>。

今回の患者は鼻茸ができていない好酸球性副鼻腔炎であったが、嗅覚と味覚が消失し、西洋薬で血中好酸球が下がったものの、症状の改善ができないためにQOLが低下。体重も5kg減少し、貧血を起こして精神的面でもかなり深刻な状態に陥った。中医学の立場では、この患者はそもそも肝風内動の体質で、高熱により肝胆の火は脳（嗅神経）まで上炎し、熱毒が局部を焼いて気血痰湿鬱阻を起こし、鼻閉・鼻水が見ら

表2 好酸球性副鼻腔炎患者の治療前後の血液検査の結果

検査項目	治療前	治療8カ月後	正常値
白血球数	5.66	5.09	$3.3 \sim 8.6 \times 10^3/\mu\text{L}$
赤血球数	5.32	5.48	$4.36 \sim 5.55 \times 10^3/\mu\text{L}$
ヘモグロビン量	13.9	14	13.7~16.8g/dL
ヘマトクリット値	44.4	45	40.7~50.1%
血小板数	181	199	$158 \sim 348 \times 10^3/\mu\text{L}$
平均血小板容積	10.7	10.1	9.4~12.6fL
PDW	12.4	11.3	9.8~16.1fL
好中球 (%)	52.9	54.8	37.0~72.0%
リンパ球 (%)	35.3	34.4	20.0~50.0%
単球 (%)	4.2	4.3	4.1~10.0%
好酸球 (%)	7.1	5.5	0.6~8.3%
好塩基球 (%)	0.5	1	0.0~1.3%
RDW-SD	39.9	39.3	39.0~52.3fL
RDW-CV	13.3	13.1	11.9~14.5%
好中球数	2990	2790	$1539 \sim 5641/\mu\text{L}$
リンパ球数	2000	1750	$1168 \sim 3262/\mu\text{L}$
単球数	240	220	$217 \sim 849/\mu\text{L}$
好酸球数	400	280	$30 \sim 592/\mu\text{L}$
好塩基球数	30	50	$0 \sim 131/\mu\text{L}$

れた。肝氣は肺と胃を犯して嗅覚と味覚を消失させた。『万病回春』(中国の明時代の成書)には「胆は熱を脳に移し鼻淵となる、鼻淵の者は濁る鼻汁が出て止まらない」と述べられている<sup>3)</sup>。

本症例では、取穴のポイントは病因病機に対する肝胆經の清熱解毒の榮穴。祛湿化痰の列穴・豊隆。行氣活血の陽陵泉・血海を用いて体質を改善しながら、副鼻腔局部のツボ、特に嗅神経に近い印堂は骨まで刺鍼した。さらに通鼻開竅・醒脾をするため、嗅覚と味覚の回復を促進する効果がある少商(肺は鼻に開竅)・隱白・厲兑(脾は口に開竅)・少衝(心は舌に開竅)を用いた。

その結果、治療開始から半年後には、嗅覚と味覚が明らかに回復し生活に支障がなくなり、QOL向上に役立てることができた。3年後には嗅覚はほぼ完全に回復し、味覚も魚と一部甘い物以外回復した。これからも鍼治療を続け、魚も食べられるよう回復することに期待している。

## VII. まとめ

本稿では、中国針と漢方薬を併用して好酸球

性副鼻腔炎患者を3年間治療した1例を報告した。前述した通り、難病指定の好酸球性副鼻腔炎に対し本症例で用いた方法は、①嗅覚と味覚の回復効果があることを示唆している、②清熱解毒、活血化瘀、祛湿化痰(苑陈则除之)によつて副鼻腔と鼻腔にある鼻茸の予防および異物組織を排出すること(祛瘀生新)が可能、③患者の血中好酸球・好中球・リンパ球と単球を下げる効果が見られた。したがって、本症例で用いた治療方法は好酸球性副鼻腔炎患者の体内のアレルギー反応と炎症反応を抑える可能性があると考える。今後さらに症例を増やし、研究を続けたい。

### 【参考文献】

- 1) 藤枝重治. 好酸球性副鼻腔炎 (p.1). <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000101107.pdf>.
- 2) 難病情報センター. 好酸球性副鼻腔炎. <https://www.nanbyou.or.jp/entry/4537>.
- 3) 龔延賢著. 楊維華整理. 万病回春. 山西科学技術出版社. 2013. p.14.

## 漢方のルーツ まんが 中国医学の歴史

原作・監修:山本徳子 画:藤原りょうじ A5判 224頁 定価(本体1,400円+税)



医道の日本社 フリーダイヤル 0120-2161-02 Tel. 046-865-2161 ご注文 Fax. 046-865-2707  
1回のご注文 1万円(税込)以上で梱包送料無料(1万円未満:梱包送料 880円)